

# 家庭教育通信

Vol.

22

監修：白井市家庭教育講座講師 富澤 優江<sup>ゆうこ</sup>  
発行元：白井市教育委員会（教育部生涯学習課 492-1111 内 3432）

平成22年9月発行

「家庭教育通信」は、子どもたちの健やかな成長を願い、よりよい家庭教育について、皆で考え行動することを目指して、白井市教育委員会が情報を発信するものです。

## 「親のぬくもり。わが子にあたえていますか？」

この夏の暑さは、格別のものでした。夜も寝苦しく熟睡できなかった方もいらっしゃると思います。そんな夜、子どもの寝相は悪く、ゴロゴロと転がって冷たいところを探しているようです。



我が家でも子どもが小さかった頃、寝ていたはずのふとんに子どもがいなかった事がありました。その上、夏はおなかを出していたので寝冷えを心配しました。寝冷えが心配になり、朝子どもを起こす時には、おなか冷えていないかとおなかに手を当て確認しました。この掌を当てさすることを、「ぽんぽんゴシゴシ」と子どもは言って、朝子どもを起こす時の習慣になりました。子どもは、パジャマをまくっておなかも背中もゴシゴシと手荒くさすられることを待っていました。けれど、この毎朝の習慣も、子どもの成長につれて親子一緒にお風呂に入る回数が減るように、中学生になってからは無くなってしまいました。

子どもの成長に連れ、子どもの体に触れる回数が減るのは親にとっては寂しいことですが、健全な発達で喜ばしいことでもあります。

途絶えていた「ぽんぽんゴシゴシ」が、この夏、我が家で復活しました。リビングで昼寝をしていた大学生の長男を起こす時に、フツと思い出して大きなおなかをさすってみました。子どもの頃と同じように伸びをして起きた息子も、「よくやったよね。」と言って懐かしそうにしていました。思い出に浸れる温かな一時でした。

先日、中学生以上の子どもを持つ母親が集まって、親子の関わり方について考えるワークショップがありました。反抗期という難しい年代の子どもに、親の愛情や人としての生き方や大切な価値観をどう伝えたらいいかを話しました。ひとつは、親が現在の親としての立場から今何をどのように伝えているか。もうひとつは親が子どもだった時、子どもとしての立場からみて自分たちの親から何がどのように伝わったかです。

まず出てきた意見は、親に否定や拒否された思い出でした。テストで95点を取った時に「どうして100点を取れなかったの？」と問い詰められ何も言えなかったこと。怖い夢を見て目覚めたので親に甘えたくても「お姉ちゃんなのだから我慢なさい。」と言われ、夢の恐さに加えて親に甘えられない寂しさをこらえてタオルを噛んでいたこと等々。

この方たちは、自分の経験から親と同じことは子どもにしないと心に決めて子育てを始めたそうです。

しかし数年後、子どもが2人、3人になってくると、下の子に手がかかり一番上の子に我慢をさせ、自分の親と同じような事をしていることに気づき愕然としたことが語られました。



次に、自分が子どもの頃、親との肯定的な思い出を探るワークをしました。

三人兄妹の真ん中の方は、母親と二人だけで出かけた時に母親と手をつないで歩き、ソフトクリームを買ってもらって食べて嬉しかったこと。第一子の方は、風邪をひいて病院に行く時母親におんぶされたこと。雨の降る寒い日だったが“ねんねこ半纏”<sup>はんてん</sup>の中には温かく甘い母の匂いに包まれて安心して眠ってしまったこと。

親子お互いのぬくもりがストレートに伝わるコミュニケーション＝スキンシップが親との肯定的な思い出として語られました。温かいふれあいがあったことを思い出し、自分の親から愛されていたことを再確認して、親に感謝の気持ちすら感じられました。この事と自分が親になり、自分の親も家事や育児に大変だったことを理解することで、親の心から自分の親に対する恨みや怒りが激減し、現在の生活で子どもを受け入れやすくなったという意見もでました。

人が生きにくさを感じた時、人生を振り返って心の整理をしていくことは生きる源にたどり着き、前に進む勇気が出てくることがあります。

それも大切なことですが、ご紹介したワークショップで多くの母親が語っていた《温かいスキンシップ》を親子でしてみませんか。親自身の中にある愛情や嬉しさ楽しさを意識して子どもに触れてみませんか。



お子さんが小さければだっこ・おんぶ・お風呂・手をつなぐなどたくさんあります。小学校高学年や中学生からは、親の思いとは裏腹に冷たく拒否されてしまうこともあります。それでも、部活や運動で疲れた体に湿布を貼ったりマッサージしたり、「成長痛」をやさしくさすったり。出かける子どもに「行っていらっしやい」の言葉に添えて肩に手を乗せることもできます。

途中で途切れてしまったとしても、子どもは気持ち良かったこと・安心したこと・嬉しかったことを覚えています。親たちが自分の親からやってもらったことを覚えているように。

参加者の一人が、うらやましい習慣を披露してくれました。「行っていらっしやい」の時に握手をする習慣だそうです。高校生の長男とはしっかりと。中学生の次男は長男がそうであったように、指先がちょっと触れるだけのタッチをいっていくそうです。いつかまた握手ができるのを楽しみにして送り出しているそうです。

あなたも、今日から子どもとスキンシップを楽しんでみませんか？きっとあなたにも温かい愛が伝わってくることでしょ。

## 県内の相談場所

### ・ 家庭教育の悩みや不安について

白井市教育委員会教育部教育センター室 492-2301  
県子どもと親のサポートセンター 0120-415-446  
(障害のある・あるかもしれない子どもの養育や教育について)  
県総合教育センター特別支援教育部 043-227-1166

### ・ 養育上の悩みや非行・虐待などについて

白井市家庭児童相談室 497-3477  
中央児童相談所(子ども家庭110番) 043-253-4101  
社会福祉法人 千葉いのちの電話 043-227-3900

### ・ 子どもの非行などについて

千葉県警少年センター(ヤングテレホン) 0120-783497

### ・ 教え・育てる ウェブサイト 「親力アップいきいき子育て広場」

[http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi\\_pc/](http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi_pc/) (PCサイト)  
<http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi/> (携帯サイト)

